

# 第6期 雄武町総合計画 前期実施計画書

様式1

No. 15040010

政策目標	4	【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17	消防・救急・防災体制の強化	事業優先度		B	
単位施策	2	消防・救急体制の充実	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	救急業務体制整備事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～平成34年度		担当課	15	消防支署	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	救急救命士研修回数				#N/A	
事業目標	23研修		関係例規・法令名	有	救急救命士法・救急業務実施基準	
町民参加	無		関係個別計画名			
町民協働						

全体計画 事業内容		平成30年度 事業内容	平成31年度 事業内容	平成32年度 事業内容	平成33年度 事業内容	平成34年度 事業内容
計画 内容	救急救命士育成(研修) 処置拡大2行為(研修) ビデオ硬性喉頭鏡(研修) 気管挿管再認定(研修) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 処置拡大2行為(研修) ビデオ硬性喉頭鏡(研修) 気管挿管再認定(研修)	救急救命士育成(研修) 処置拡大2行為(研修) ビデオ硬性喉頭鏡(研修) 気管挿管再認定(研修) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 処置拡大2行為(研修) ビデオ硬性喉頭鏡(研修) 気管挿管再認定(研修) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 処置拡大2行為(研修) ビデオ硬性喉頭鏡(研修) 気管挿管再認定(研修)	救急救命士育成(研修) 処置拡大2行為(研修) ビデオ硬性喉頭鏡(研修) 気管挿管再認定(研修) 気管挿管病院実習
	事業費(千円)	5,500	850	1,250	1,200	900
計画 事業費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	5,500	850	1,250	1,200	900	
実績 事業費	事業費(千円)	710	710	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	710	710				
関連 事項	特定財源の名称		(実施内容等) 救急救命士育成(研修) 処置拡大2行為(研修) ビデオ硬性喉頭鏡(研修) 気管挿管再認定(研修)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	4研修	5研修	5研修	4研修
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	84%	0%	0%	0%
		全体達成率	13%	13%	13%	13%
		備考欄				

事業名	救急業務体制整備事業	評価者 管理職 職氏名	支署長	安本 明志美
		評価者 作成者 職氏名	救急係長	高野 一晃

様式1  
平成30年度実施  
平成31年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	職員(救急救命士)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	研修計画に基づく救急救命士の派遣	
【抱える課題やニーズは】	救急活動の充実。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	救急現場に救急救命士が出勤し、重度傷病者に高度な救命処置を実施する。	① 札幌医大病院研修	目標年度 目標値	平成30年度 4人
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	研修を受けることにより、救急救命士が高度救命処置を実施できるようになり、重度傷病者の救命率の向上や予後に抱える後遺症の軽減が図られる。	② 処置拡大2行為研修	実績値	4人
			達成度	100.0%
			目標年度 目標値	平成30年度 1人
			実績値	1人
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	札幌医大病院研修	医師の指導のもと、研修(救急搬送患者を医師の指示のもと、処置を実施)を行う。(平成30年度 4名)		
	処置拡大2行為研修	医師の指導のもと、処置拡大2行為研修を行う。(平成30年度 1名)		
	ビデオ硬性喉頭鏡研修	医師の指導のもと、ビデオ硬性喉頭鏡研修を行う。(平成30年度 1名)		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	救急救命士の生涯教育及び実習は義務付けとなっている。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	救急救命士の生涯教育及び研修は達成できた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	救急救命士が研修を受けたことにより、町民に対し高度な救命処置を実施できる資格を取得した。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	救急救命士の資質向上を図り、救急傷病者に対し高度な救命処置が実施できる。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
救急救命士が研修を受けたことにより、救急傷病者に対し、有効な救命処置ができるようになり、手技の向上が認められるため今後も必要であると考える。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
町民に対し高度な救急活動を行うことが安心できる町づくりを目指すには必要であり、継続事業であることが適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止